

科目名	国際メディア論特講	担当者	コンドウ 近藤 モトヒロ 大博	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、現代社会において不可欠な情報・メディアの特質を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的な情報の流通の特質を把握することができる。【A-2:4】【A-8:4】 2. 国際社会のメディアの問題点を指摘することができる。【A-4:4】【A-8:4】 3. メディア・リテラシーを高めることができる。【A-6:4】【A-8:4】 4. 理想的なメディア像を描くことができる。【A-2:4】【A-5:4】【A-8:4】 <p>【日本大学教育憲章ループリックの該当番号】</p>		
到達目標	<p>[一般目標(GIO)]</p> <p>時代の変化とメディア、特に新聞や雑誌の論調の変化、論調・報道と現実の動きの相互関係を検証することにより、情報・メディアを適切に活用する方法を修得する。</p> <p>[行動目標(SBOs)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メディアの発達・変化がいかに時代を動かしたか、動かすかを説明できる。(知識・想起) 2. 時代の流れや経営上の要請により、メディア・情報・論調が変容する様相を類別できる。(知識・解釈) 3. IT化の進展、SNSの普及によるメディア・情報の変質を測定・指摘できる。(知識・技能) 4. 学問、知識人、世論、政治とメディアの関係を説明できる。(知識・解釈) 5. 日本の報道・評論と諸外国のそれらとの相違とその原因を指摘できる。(知識・問題解決) 6. メディア・情報に内在する問題を歴史的に整理・類別できる。(知識・解釈) 7. 歴史認識・対外認識・自国イメージを形成するさいに陥りやすい陥穽を列挙できる。(知識・問題解決) 8. メディアの今後の方途を記述できる。(知識・問題解決) 		
学修方略(方法) 【LS】と 学修時間	<p>[アクティブラーニングの有無・学修媒体等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folioの全受講者用の掲示板機能を利用し、教員と受講者として質疑し、その過程を受講者全員に公開し、その成果を共有する。(自習、自主研究、ディベート) ・manaba folioを利用し、受講者同士で質疑応答・意見交換する。(自主研究、ディベート) ・図書館、インターネットなどで自律的に資料を検索して、レポートを作成する。(自習、自主研究、レポート作成) ・manaba folioを利用し、教員にレポートの構成を相談し、草稿を提出し、添削指導を受ける。(レポート作成) <p>[学修方略(LS)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題に沿って、教材や参考図書を読み込み、自らが問題点を抽出する。 ・抽出した問題を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。 ・上記の過程で、疑問点などに関し、教員に、manaba folio、メールなどで相談・質問する。 ・教員から、適宜、manaba folio、メールなどにて伝達される情報・補助教材を活用する。 <p>[学修時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 篇のレポート作成に、最低 45 時間の学習時間を要する。 ・基本教材・参考文献の読み込み、データの探索：20 時間 ・レポート執筆：10 時間 ・レポートの推敲、教員の添削指導：15 時間 		
スケジュール	<p>前期：教材 1 のレポート課題(1)の草稿は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目途に提出する。</p> <p>いずれのレポートも課題提出締切日(9 月 19 日)までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期：教材 2 のレポート課題(1)の草稿は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目途に提出する。</p> <p>いずれのレポートも課題提出締切日(2020 年 1 月 14 日)までに最終稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法、注・参考文献の適切性・記載方法、最新の研究の反映や自らの研究分野との関連性などを評価する。
	観察記録	20%	スケジュールの遵守の度合、メールの送受信の状況、質疑応答の内容などを勘案する。
履修者への要望	<p>自らが最も有用と想定する新聞・月刊総合雑誌を定期購読することが望ましい。</p> <p>外国の新聞・雑誌、WEB に恒常的に接することが望ましい。</p> <p>そのおり、持つにいたった疑問・問題に関し、メールや manaba folio を活用し、積極的に教員と討論すること。</p> <p>レポートの題材・テーマは、自身の研究に資するように努めること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：朝日新聞社「新聞と戦争」取材班 教材名：『新聞と戦争』上・下（朝日新聞出版，2011年） 上 ISBN:978-4-02-261701-9 780円+税 Kindle版 https://www.amazon.co.jp/ 799円 下 ISBN:978-4-02-261702-6 780円+税 Kindle版 https://www.amazon.co.jp/ 799円</p> <p>朝日新聞による戦前・戦中期の同紙の報道内容の検証。軍国主義下，新聞の取材・編集現場と経営陣の葛藤，広告と部数拡大の実態，新聞と民主主義・自由の価値，世論との相互関係等々についての歴史の教訓。かつ現在のジャーナリズム・新聞にも通底する問題を示唆する。</p>
参考図書	<p>今西光男『占領期の朝日新聞と戦争責任』（朝日新聞出版，2008年） ISBN:978-4-02-259940-7 1,400円+税 河内孝『新聞社』（新潮社，2007年）ISBN:978-4-10-610205-9 700円+税 大治朋子『アメリカ・メディア・ウォーズ』（講談社現代新書，2013年） ISBN:978-4-06-288227-9 780円+税 辻田真佐憲『大本営発表 改竄・隠蔽・捏造の太平洋戦争』（幻冬舎新書，2016年） ISBN:978-4-344-98425-7 860円+税</p>
履修上のポイント	<p>新聞論調を論ずる前に，歴史・時代の流れを把握すること。商品としての新聞の特性・限界とジャーナリズムの使命の関係を意識すること。 基本教材・参考図書としてあげないが，ネット上の情報をもおおいに活用すること。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材のうち，もっとも印象的だった章について，その概要を紹介し，かつ取り上げた理由を叙述せよ。（3,000字程度） 留意点：過去の新聞を現在の時点から断罪するのではなく，かつ「やむをえなかった」などと諦めることなく，あくまでも現在・将来に通用するジャーナリズム・新聞像及びその役割を求めること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材が示す事象を教訓として，現代における理想のメディア像・新聞像・雑誌像を明示せよ。（3,000字程度） 留意点：情報のすべてが商品である今日，発信源の経営が成立しなくては，情報を供給できなくなる。情報の質・精度を高めることと収益性を高めることは，ときに矛盾・相克が生じることを意識すること。かつ，活字媒体の場合，それらが生き残る方途をも考察すること。また，IT化の進展，SNSの普及によるメディア・情報の変質，フェイクニュースの特性とその影響を考察すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：青木保 教材名：『「日本文化論」の変容』（中央公論新社，1999年） ISBN:978-4-12-203399-3 590円+税</p> <p>戦後の日本人論・日本文化論の展開と軌跡をたどり，経済的発展と日本人の自画像を描く営みの関係を考察する。日本人の対外認識，外国人による日本・日本人論に潜む偏見とそれらが生じる原因を考察する。</p>
参考図書	<p>文春ムック『文藝春秋オピニオン 2019年の論点100』（文藝春秋，2019年） ISBN:978-4-16-008683-8 1,500円+税 文春ムック『文藝春秋オピニオン 2018年の論点100』（文藝春秋，2018年） ISBN:978-4-16-008658-6 1,500円+税 小池和男『日本産業社会の「神話」』（日本経済新聞出版社，2009年） ISBN:978-4-532-31435-4 1,800円+税 竹内洋『革新幻想の戦後史』（中央公論新社，2011年）ISBN:978-4-12-004300-0 2,800円+税 近藤大博『月刊総合雑誌拾い読み(2011-2015)』（未来へのメッセージ舎，2016年）Kindle版 https://www.amazon.co.jp/ 533円</p>
履修上のポイント	<p>日本人による日本論，外国人(たとえばアメリカ人)による日本論の相違が生じる理由・背景を把握するよう努めること。また，日本人による外国論(たとえばアメリカ論や中国論)と外国人(たとえばアメリカ人や中国人)による日本論の相違が生じる理由・背景を把握するよう努めること。 上の営為は，国際関係を考究するさいに，肝要な，客観的な自国分析・他国把握を可能にする。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材の4つの区分のうち，一つの時期を取り上げ，その特徴を論述せよ。（3,000字程度） 留意点：その時期が，現在の論調や日本・日本人の自己認識(自画像)といかなる関連・関係があるかを考察すること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材の問題提起を踏まえ，新聞・雑誌・テレビ・SNSなどでの，現在の日本人による外国に関する報道・評論を，または外国人による日本に関する報道・評論を，批判的に考察・論述せよ。（3,000字程度） 留意点：対象としやすいのは，雑誌論文である。 各自の研究に資するような題材にすること。</p>